（2022年９月21日付・下野新聞１面）

NIEしもつけ ワークシート 下野新聞

⑫⑨

中学生～高校生向け

年　組

消費者物価2.8％上昇

8月、31年ぶり伸び率

総務省

総務省が20日発表した8月の全国消費者物価指数（2020年＝100、生鮮食品を除く）は、前年同月比2・8％上昇の102・5だった。伸び率は消費税増税の影響を除くと、バブル景気に陰りが見えながらも住居費が高かった1991年9月以来、約31年ぶりの大きさとなった。円安進行やロシアのウクライナ侵攻などを背景に、エネルギー資源や原材料の輸入価格が高止まりしていることが響いた。

（10面に関連記事）

今後は昨年春以降に相次いだ携帯電話の通信料値下げの影響が弱まるため、食料品の値上げが集中する10月には91年8月以来となる3％が現実味を帯びる。円安による輸入品価格の上昇は今後も続く見通しで、家計の重荷となりそうだ。

政府と日銀が掲げる2％の物価上昇目標を5カ月連続で超えたものの、十分な賃上げを伴っておらず、日本経済にとってマイナスの状況が続く。物価上昇は12カ月連続で、伸び率は消費税増税の影響も含めると、2014年10月以来7年10カ月ぶりの大きさ。

項目別では、食料は価格が天候に大きく左右される生鮮食品を除いて4・1％上昇した。企業の価格転嫁が進み、7月の3・7％上昇から勢いが増した。

エネルギーは16・9％上昇で、引き続き全体を押し上げた。このうち電気代は21・5％、都市ガス代は26・4％上がった。

設　問

【1】全国消費者物価指数は、前年の同じ月から比べて何％上昇し、いくつになりましたか。記事をよく読み、書きましょう。

「①　　％上昇の②　　」

【2】この伸び率は、何年ぶりの大きさとなりましたか。

【3】物価上昇の背景にはどのようなことが関係していると考えられますか。

【4】10月に値上げが集中するのはどのようなものが多いですか。

【5】円安の影響を受けて価格が上がるのは、輸入品と輸出品のどちらですか。

出題・監修は県高校教育研究会地歴公民部会・木村優里（きむらゆり）大田原女子高教諭